

2021 年度 武蔵野学院大学 履修の手引き

目次

1. 単位について	4
1) 単位の数え方	4
2) 履修できる単位数の上限.....	4
3) 履修制限について	4
2. 授業について	4
1) 授業の時間割	5
2) 授業科目の区分について	5
3) 授業の学修について	5
4) 授業を欠席するとき	6
3. 定期試験を受けるとき	7
1) 定期試験を受けるときに注意すべきこと	7
2) 追試験について	7
3) レポートを提出するとき	8
4. 成績について	8
1) 成績の評価.....	8
2) 保証人への成績送付について	8
3) 成績に関する問い合わせについて	9
5. GPA について	9
6. 卒業・学位授与について	10
資料	11
・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	11
・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	12
・アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）	13

・ アセスメント・ポリシー	14
・ ナンバリング コード	18
・ 履修系統図	25

履修の手引きの位置づけについて

『学生便覧』とは、大学のルールや心得、免許・資格に関することや履修や卒業の要件などが書かれています。『学生便覧』は毎年作成され、皆さんに配布されています。本学ホームページでも、『学生便覧』をダウンロードすることができます。本手引きは、『学生便覧』を補足することを目的に作成されていますので、『学生便覧』と合わせてお読みください。

1. 単位について

大学では授業の方法に応じて、各授業科目の「単位」が決められており、その授業の成績評価が「C」以上が合格となり、「単位」が与えられます。

1) 単位の数え方

1単位は、1授業科目につき45時間の学修を必要とする内容をもって構成されるのが標準です。

2) 履修できる単位数の上限

履修できる単位数の上限は、1年間で50単位です。この上限は、教育課程表に記載のある科目のみに適用されます。つまり、卒業要件に含まれない「教員免許状(英語科)」や「日本語教員資格」にのみ係る科目は含まれません。なお、4年生については、教務部長の許可により上限を越えて履修登録をすることができます。

3) 履修制限について

中国語、韓国語、フランス語そして日本語の授業は、各言語を母語として使用している学生は、原則、履修できません。

履修制限される該当科目：中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語Ⅳ

韓国語Ⅰ、韓国語Ⅱ、韓国語Ⅲ、韓国語Ⅳ

フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ

日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ

上記の授業は、原則として授業科目名についているローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）の順で履修する必要があります。つまり、「Ⅰ」の単位が与えられていない状態で「Ⅱ」を履修することは基本的にはできません。すでに該当レベルに達していることが示せるエビデンスがあれば上位レベルの授業科目を履修できることもありますので、教務部にお問い合わせください。

2. 授業について

本学の授業は、前期と後期に分けて行われています。

前期 4月1日から9月20日

後期 9月21日から3月31日

1) 授業の時間割

授業は、90 分を 1 授業時間として行われます。

第 1 時限	8 : 50～10 : 20
第 2 時限	10 : 30～12 : 00
第 3 時限	12 : 50～14 : 20
第 4 時限	14 : 30～16 : 00
第 5 時限	16 : 10～17 : 40
第 6 時限	17 : 50～19 : 20

* 年度始めに、前期分・後期分を印刷した授業時間割表を配布します。

本学ホームページでもダウンロードすることができます。

2) 授業科目の区分について

授業科目は、いくつかの考え方により区分することができます。一つは基礎科目、専門科目、専門ゼミ科目という区分です。それぞれに卒業するまでに必要な単位数が異なっているので、計画的に履修するときのポイントの一つになります。

基礎科目	社会全体の価値観の多様性を理解する内容です。
専門科目	専門的な内容を学びます。
専門ゼミ科目	専門的な内容を少人数で学びます。

また、もう一つの分け方として、必修科目と選択科目があります。必修科目は、卒業するまでに必ず単位を取得する必要があります。選択科目は、多くの科目の中から選んで履修する科目になります。

3) 授業の学修について

大学の授業は自ら積極的に取り組むものになります。出席をするだけ、黒板をうつすだけ、発言を繰り返すだけでは単位を取得することは難しくなります。また、各授業ごとに事前学習が強く求められます。成績評価の方法や、事前学習については各科目のシラバスでも確認ができます。授業前後の学習を工夫してください。

休講とは

大学や先生の事情によって授業が休みになることを休講と言います。休講の際は、MAS で確認できます。また、教務部掲示板にも掲示されます。こまめに確認しましょう。

補講とは

授業が所定の回数に足りない場合などは、正規の授業時間とは別に日時を決めて授業をおこなうことがあります。これを補講と言います。日時・教室等は、MAS で確認できます。また教務部掲示板にも掲示されます。

4) 授業を欠席するとき

授業はすべて出席してください。遅刻や早退は三回で欠席一回として計算されます。しかし、やむを得ない事情で欠席する場合も出てきます。そのときは、公欠の手続きをしてください。

公欠理由により該当する部署に、公欠を証明する書類等を持って来てください。その部署にある公欠届に必要事項を記入し、証明する書類と一緒に提出して下さい。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる場合は、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル（学生用）」の7、8 頁をご参照ください。

公欠理由	角印又は部署印を捺印する部署など
・就職に関する事	学部就職部
・教育実習や介護体験に関する事	教職センター
・クラブ関係、アテンダント関係、学内外等への学生派遣(入試関係等)に関する事	学生部
・留学に関する事	国際センター
・忌引	教務部
・インフルエンザ等による出席停止	保健室
・海外研修	国際センター

3. 定期試験を受けるとき

授業科目の成績評価には、定期試験が含まれることがあります。今年度の前期は定期試験を行いません。試験期間は『2021 年度学生便覧』の教育計画（17 頁）で確認できます。定期試験の時間割は試験期間初日のおおよそ 2 週間前に教務部掲示板に掲示します。

1) 定期試験を受けるときに注意すべきこと

- ・定期試験には、「学生着席時間（試験開始時刻 10 分前）」と「試験時間」があります。学生着席時間までに指定された座席に着席して試験を受ける体制を整えてください。「学生着席時間」から、試験についての確認や、問題用紙等の配布を行います。

- ・試験を受けるときは、机の上に学生証を置いてください。万が一、忘れてしまった場合は学生着席時間の前に学生部で仮学生証を発行してもらってください。

- ・どの試験も机の上には、鉛筆（シャープペンシル）、消しゴム、鉛筆けずり、メガネのみを置くことができます。また、スマートフォンやウェアラブルウォッチ等の通信機能のある機器は電源を切り鞆にしまいます。服のポケット等に入れている場合は不正行為と見做す場合があります。

- ・授業科目によっては、机の上に教科書やノート、プリントを置くことを許可する場合があります。机に出せるものは、書く授業科目担当の先生から事前に申請があったものを許可します。また、机に出せるものは定期試験の時間割で確認できます。

- ・遅刻することが分かった場合は、試験が開始される前に教務部に連絡をしてください。なお、試験開始から 30 分後が遅刻限度時刻となります。遅刻限度時刻までに入室ができた場合は受験を認めますが、試験時間の延長はしません。また、遅刻限度時刻を過ぎての入室、受験はできません。交通機関等の遅れが出る場合がありますので、試験日については特に余裕を持った通学を心掛けましょう。

2) 追試験について

忌引や病気、事故等学生本人の責任ではないやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を受けることができます。追試験を受けるためには、出席できなかった理由を証明する書類（診断書等）の提出が求められます。まずは教務部に申し出てください。

3) レポートを提出するとき

授業科目によってはレポートの提出を求められます。提出方法は2種類あります。各先生に直接提出する方法とMASにより提出する方法です。授業科目担当の先生の指示に従って提出しましょう。また、決められた文字数と提出期限等を守ってください。

4. 成績について

履修した授業科目には、すべて成績がつきます。それぞれの授業科目は評価基準により、授業科目担当の先生が評価します。成績によって、その授業の単位が取得できるかどうかが決まり、GPA の値にも影響します。

1) 成績の評価

5段階でSからFまでのアルファベットで示されます。SからCは合格です。Fは不合格となり、単位が取得できません。評点との対応は下記のとおりです。成績の開示は、MASを通して成績を確認します。

合格				不合格
S	A	B	C	F
90 点以上	80～89 点	70～79 点	60～69 点	59 点以下

2) 保証人への成績送付について

学期の成績が確定した時点で、保証人へ成績を通知します。保証人に変更（氏名・住所・電話番号等）が生じた場合は、その都度すみやかに学生部に届け出てください。

〈成績送付時期の目安〉

前期：9月下旬

後期：3月中旬

3) 成績に関する問い合わせについて

成績に関する問い合わせとは、成績評価の確認を行うものです。試験内容や採点(評価方法・評価の理由)についての説明や成績の再考・救済を求めるものではありません。例年、成績開示後、1週間を目処に成績問い合わせの期間を設けております。成績問い合わせの期間や方法は、成績開示時に改めて連絡します。

5. GPA について

本学では、各科目の平均値(Grade Point Average=以下「GPA」という)を算出しています。学生においては、自身のGPAから学習充実度を客観的に把握し、学修計画に反映することが求められます。

【 GPA 制度 】

授業科目ごとの成績評価に対して、GP(グレードポイント)を付し(例えば、5段階 A、B、C、D、E の成績評価に対して、それぞれ 4、3、2、1、0 の GP)、この単位当たりの平均を出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。したがって、個々の学生の学修時間当たりの学習到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目の GP に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値をいうことから、学習到達度を表す指標の数値化の意味合いがあります。

本学では S・A・B・C・F の 5 段階で成績評価されます。100～90 を S、89～80 を A、79～70 を B、69～60 を C、～59 を F とする区分しています。GPA の計算は、公平性の観点から卒業要件科目に関してのみ行っています。GPA が 1 点台かそれ以下の場合は成績不良として、全体の単位取得状況と合わせて注意勧告、嚴重注意などの指導対象となる場合があります。

本学における GPA の算出方法は以下の通りです。

GPA

$$\text{GPA} = \frac{4 \times \text{S の修得単位数} + 3 \times \text{A の修得単位数} + 2 \times \text{B の修得単位数} + 1 \times \text{C の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む)}}$$

6. 卒業・学位授与について

卒業は、所定の単位数をとって、かつ卒業要件を満たしている方に、学位を授与します。卒業に必要な単位数（合計 124 単位）を取れば自動的に卒業できる、学位が授与されるというものではありません。本学の「ディプロマ・ポリシー」に示されている要件を満たしているかどうかという点を、必ず学位認定の際に判定しています。そのためには、所定の単位を取るのみならず、良い成績を目指し、また質の高い卒業論文を書き上げることが求められます。

本学で卒業の認定を得た者には、「学士（国際コミュニケーション）」の学位が与えられます。

資料

・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

2019 年以降の入学生

本学では以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定され、学士（国際コミュニケーション）の学位が授与される。

（１）知識・理解

国際コミュニケーションに関する深い教養や英語を中心とした語学力を身につけ、かつ自国の文化や異文化への理解を深めた者。

（２）汎用的技能

国際コミュニケーションに関する講義・演習・実習を通して獲得した知見に基づき、他者や他文化との同質性や差異を認識し、国際人としてさまざまな問題に対処できる能力を身につけた者。

（３）態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、他者と協調・協働し、社会に貢献しようとする意識を持った者。

（４）統合的な学習経験と創造的思考力

４年間にわたる講義・演習での学びや実習での実践、国際コミュニケーションに関するゼミ科目等での発表・報告等の活動を通じて、批判的・論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを総合的に身につけた者。

2016 年から 2018 年の入学生

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を次のように定める。

(1)知識・理解

国際コミュニケーションにおける基本的な知識を体系的に理解するとともに、建学の精神「他者理解」を深めるために体系的な学習と自己のアイデンティティと異文化理解、理論と行動を一体化させ、実践力を身に付けた者。

(2)汎用的技能

国際コミュニケーションに関する専門的な講義、演習、実習を通して得た情報や知識を分析し、言語、非言語、デジタルによるコミュニケーション・スキルに基づき、問題を解決に導く能力を身に付けた者。

(3)態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、倫理観に基づき他者と協調・協働し、社会に貢献することができる資質・能力を身に付けた者。

(4)統合的な学習経験と創造的思考力

4年間にわたる「講義」「演習」での学びや、国際コミュニケーション実習での実践、専門ゼミ科目等での発表等の活動を通して、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身に付けた者。

・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

2019 年以降の入学生

カリキュラム・ポリシーとは簡単に言えば、本学の建学の精神、教育理念、養成する人材像を実現するための基本的な考え方を具体化したもの。以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

- 1 国際人として活躍できる教養を身につけるために、文化・社会・科学・スポーツ・総合科目からなる教養科目を実施する。
- 2 英語を中心とした語学について、「読む」「書く」「話す」「発表」「聞く」などの運用能力を総合的に修得するため、言語理解科目を実施する。
- 3 世代や文化の違いを乗り越えた高度なコミュニケーション能力、他者との協調性を修得するため、人間理解科目を実施する。
- 4 日本や他国の文化・社会・歴史に関する総合的知見を身につけるため、日本理解科目及び国際理解科目を実施する。
- 5 国際コミュニケーションに関する教養や語学力に基づき、国際的な事象に対する新たな知見や価値を生み出し、それを発信できるように、国際コミュニケーション関連ゼミを実施する。

2016 年から 2018 年の入学生

国際コミュニケーションの知識・理論の学習を通し、実践力を身に付けるための実習を通して国際的な視野をもち、自己や自国文化、及び多様な他者に対する理解力に裏付けられた技能・能力を身に付けることを目的として教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のように定める。

- 1 国際人として活躍できる教養を身につけ、他者を理解するための基盤となる科目として基礎科目、専門性を高め、広い国際的な視野と深い国際的な見識を養うことを目的とする専門科目、理論と行動を一体化させ、実践力を養う専門実習科目、これまで学んだ知識や体験をプレゼンテーション、発表等を通して深めていく専門ゼミ科目を配置する。
- 2 専門科目は言語コミュニケーション科目、デジタルコミュニケーション科目、人間コミュニケーション理解関連科目、日本理解関連科目、国際事情理解関連科目の 5 分野により、自らのアイデンティティを明確にしながら国際舞台で活躍できる国際人を養成する科目を配置する。
- 3 国際人として必要なグローバル・リテラシー（国際対話能力）を重要視し、英語の一部については必修科目としての位置付け、さらにデジタルコミュニケーション科目で活用を中心とした科目配置を行っている。

4 倫理観、勤労観、職業観を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育に関連する科目も基礎科目及び専門科目に配置した。シラバスの右上に「キャリア教育」と明記している科目を位置付けた。

5 カリキュラム・ポリシーをさらに具現化するため、履修モデルとして国際コミュニケーションコース、ビジネスコミュニケーションコース、心理コミュニケーションコースの3つを想定した。

6 カリキュラム・ポリシーを強化する意味で、卒業要件の教育課程以外にも免許・資格の教育課程を設置し、科目の一部を共通とし、キャリア教育の支援を行う。

7 これまで身につけた知識やコミュニケーション・スキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を具現化するため、専門ゼミ科目においては学生全員が必ずゼミに所属し、ゼミ担当教員がきめ細やかな指導を行う。

・アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○求める人物像

① 国語、英語を中心に、高等学校卒業レベルの基礎学力を持ち、国際コミュニケーションに高い関心を持つ者。

② グローバル化の進む社会に発生する諸課題に対して、自らの考えを持ち、それを他者に伝えようとする意欲のある者。

③ 国際人として国際社会で活躍するための教養・思考力・主体性を持とうとする意欲のある者。

④ 英語を中心とした外国語を修得した上で、異文化理解を深めようとする意欲のある者。

・アセスメント・ポリシー

2021 年度以降の入学生

(1) 各ポリシーの評価指標

	入学前（入学直後） （アドミッション・ポリシー）	在学中 （カリキュラム・ポリシー）	卒業時（卒業後） （ディプロマ・ポリシー）
機関レベルの指標	・入学者選抜試験 ・調査書等の記載内容	・GPA ・修得単位数 ・退学率 ・休学率 ・課外活動状況	・学位授与率 ・就職率、進学率 ・卒業生アンケート調査
1 課程レベル（国際コミュニケーション学部）の指標	・入学者選抜試験 ・入学前オリエンテーション時の面接 ・志望理由書等の記載内容	・GPA ・修得単位数 ・退学率 ・休学率 ・授業評価アンケート ・外部試験実績 ・課外活動状況 ・海外留学実績 ・インターンシップ参加状況	・学位授与率 ・就職率、進学率 ・免許、資格取得率 ・GPA ・ゼミの評価
指標 科目レベルの	・入学者選抜試験	・成績評価 ・授業評価アンケート ・学習ループリック	

(2) ディプロマ・ポリシーに関する具体的な評価方法（アセスメント・チェックリスト）

	評価方法	対象者	実施時期	検証
機 関 レ ベル	学位授与率	4 年生	卒業時	自己点検・評価委員によって実施
	就職率・進学率	4 年生	卒業時	
	卒業生アンケート調査	卒業生	卒業後 1 年経過から 3 年(年 1 回)	
課 程 レ ベル	学位授与率	4 年生	卒業時	ディスクロージャー及び自己点検・評価委員によって実施
	就職率・進学率	4 年生	卒業時	
	免許、資格取得率	4 年生	卒業時	
	GPA	4 年生	卒業時	
	ゼミの評価	4 年生	卒業時	
	外部試験実績	全学年	各年度末	
	授業評価アンケート	全学生	各期末	
	課外活動状況	全学生	各年度末	
	海外留学実績	全学年	各年度末	
	インターンシップ参加状況	全学年	各年度末	
科 目 レ ベル	成績評価	全学生	各期末	各科目担当教員によって実施
	授業評価アンケート	全学生	各期末	
	学習ループリック	全学生	各期末	

2020 年度以前の入学生

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教養：素養として広い教養を身に付け、社会と個人との関係を様々な角度からとらえられるようにする。基礎科目を積極的に履修し、理解を深める。
		専門：英語や情報については高等学校の復習を兼ねながら、基礎を固める。他の専門科目については履修系統図を意識して、科目を選択する。レポートの書き方、大学生としての授業の受け方など、この前期のうちに身に付ける。
		職業：豊かな感性を通して社会と個の関係を理解し、人間関係の構築と重要性を理解する。大学生としての在り方を考える。
	後期	教養：素養として広い教養を身に付け、社会と個人との関係を更に深くとらえられるようにする。基礎科目を積極的に履修し、理解を深める。
		専門：高等学校までの英語力をさらにブラッシュ・アップすると共に、基礎的な内容について十分に理解を深める。2 年次より始まる体験型の学習である実習に必要な背景などを深く学ぶように科目を選択し、理解を深める。
		職業：豊かな感性を通して社会と個の関係を理解し、人間関係の構築と重要性を理解する。大学生としての在り方を考える。
2 年次	前期	教養：素養として広い教養を身に付け、職業観・労働観、また奉仕の精神などを理解する。基礎科目を積極的に履修し、理解を深める。
		専門：海外研修を履修することにより異文化理解を深め、視野を広げる。また、他の実習も履修することにより「自分力」（己を知り、他者を理解）する。
		職業：「キャリア・デザイン」を通して「労働観」「職業観」を学び、職業と生活との関連性について深く理解する。「海外研修」などを通して体験を広める。
	後期	教養：素養として広い教養を身に付け、様々なコミュニケーション能力を高める。
		専門：英語については必修科目配当最終学期でもあることから、基礎力の最終確認ができるようにする。十分な基礎学力を身に付ける。
		職業：「キャリア・デザイン」を通して「労働観」「職業観」を学び、職業と生活との関連性について深く理解する。
3 年次	前期	教養：卒業要件で 3 年次より必修となるゼミの活動を通して、発表やプレゼンテーション能力を開発する。
		専門：ゼミ（演習 1）をコア科目に考え、専門性を高める。
		職業：「キャリア・デザイン」やゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。「インターンシップ」「ボランティア」などを通して体験を広める。
	後期	教養：ゼミの活動を通して、発表やプレゼンテーション能力を開発する。

4年次		専門：ゼミ（演習2）をコア科目に考え、発表やプレゼンテーションに必要な知識を身に付ける。
		職業：「キャリア・デザイン」やゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。「インターンシップ」「ボランティア」などを通して体験を広める。
	前期	教養：卒業要件で4年次でも必修となるゼミの活動を通して、発表やプレゼンテーション能力の開発とする。
		専門：ゼミ（演習3）をコア科目に考え、これまでの発表やプレゼンテーションを論文等へまとめるための基礎を固める、また、社会と個の関係を理論的に理解する。
		職業：ゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。グローバル・リテラシー（国際対話能力）を駆使したコミュニケーション・スキルを高める。
	後期	教養：卒業要件で4年次のゼミでゼミ論文集などの作成を通して、自分の考えを文章としてまとめいくなど、表現能力を高める。
		専門：ゼミ（演習4）をコア科目に考え、ゼミ論文等をまとめることで学士力総まとめとする。社会に出る直前としてゼミの活動を通して今後のキャリア・デザインなどについても強く意識する。
		職業：ゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。グローバル・リテラシー（国際対話能力）を駆使したコミュニケーション・スキルを高める。

・ナンバリング コード

2019 年以降の入学生

①基礎科目

BR10001	歴史と文学
BR10 002	伝統と文化
BR10 003	倫理学
BR10 004	現代社会論 1 (日本国憲法を含む)
BR10 005	現代社会論 2 (政治)
BR10 006	現代社会論 3 (ビジネス)
BR10 007	現代社会論 4 (法と生活)
BR10 008	環境と科学
BR10 009	情報処理入門
BR10 010	情報リテラシー
BR10 011	こころとからだ
BR10 012	スポーツ 1

BR10 013	スポーツ 2
BR10 014	スポーツと健康
BR10 015	基礎英語 1
BR10 016	基礎英語 2
BR10 017	中国語 I
BR10 018	韓国語 I
BR10 019	フランス語 I
BR10 020	キャリア・デザイン 1
BR10 021	キャリア・デザイン 2
BR10 022	キャリア・デザイン 3
BR10 023	キャリア・デザイン 4
BR10 024	キャリア・デザイン 5
BR10 025	キャリア・デザイン 6

②言語理解科目

BR20 031	English Reading & Writing 1
BR20 032	English Reading & Writing 2
BR20 033	English Listening & Speaking 1
BR20 034	English Listening & Speaking 2
BR20 044	Advanced English Reading & Writing 1
BR20 045	Advanced English Reading & Writing 2
BR20 046	Advanced English Listening & Speaking 1

BR20 047	Advanced English Listening & Speaking 2
BR20 063	通訳英語
BR20 037	試験英語 1
BR20 038	試験英語 2
BR20 052	試験英語 3
BR20 053	試験英語 4
BR20 035	Communication English Skills 1

BR20 036	Communication English Skills 2
BR20 048	Communication English Skills 3
BR20 049	Communication English Skills 4
BR20 050	Communication English Skills 5
BR20 051	Communication English Skills 6
BR20 065	英語討論
BR20 054	実務英語 1
BR20 055	実務英語 2
BR20 066	実務英語 3
BR20 056	英語学概論
BR20 057	英語文学
BR20 067	英書講読 1
BR20 038	英書講読 2

BR20 069	Academic Writing
BR20 039	中国語Ⅱ
BR20 058	中国語Ⅲ
BR20 059	中国語Ⅳ
BR20 040	韓国語Ⅱ
BR20 060	韓国語Ⅲ
BR20 061	韓国語Ⅳ
BR20 041	フランス語Ⅱ
BR20 062	フランス語Ⅲ
BR20 063	フランス語Ⅳ
BR20 042	日本語Ⅰ
BR20 043	日本語Ⅱ
BR20 064	日本語Ⅲ

③人間理解科目

BR30 066	デジタルコンテンツ演習 1
BR30 067	デジタルコンテンツ演習 2
BR30 068	モバイル・コミュニケーション
BR30 069	異文化コミュニケーション
BR30 070	プレゼンテーション技術
BR30 071	非言語コミュニケーション論
BR30 072	ポップカルチャー論
BR30 073	社会学概論

BR30 074	教育心理学
BR30 075	社会心理学
BR30 076	教育社会学
BR30 077	社会福祉
BR30 078	ビジネス・コミュニケーション
BR30 079	教職概論
BR30 080	教育原理
BR30 081	教育行政学

BR30 082	道徳教育の指導法
BR30 083	特別支援教育

BR30 084	インターンシップ
BR30 085	ボランティア

④日本理解科目

BR40 086	日本文化論 1
BR40 087	日本文化論 2
BR40 088	日本文化論 3
BR40 089	日本社会論 1（政治と歴史）

BR40 090	日本社会論 2（法と社会）
BR40 091	日本社会論 3（思想と宗教）
BR40 092	日本の伝統文化

⑤国際理解科目

BR50 093	国際コミュニケーション
BR50 094	国際関係
BR50 095	国際政治史
BR50 096	国際金融
BR50 097	国際文化交流
BR50 098	地域文化事情 1（韓国）

BR50 099	地域文化事情 2（中国）
BR50 100	地域文化事情 3（アジア）
BR50 101	地域文化事情 4（ヨーロッパ）
BR50 102	地域文化事情 5（北アメリカ）
BR50 103	地域文化事情 6（オセアニア）
BR50 104	海外研修

⑥専門ゼミ科目

BR60 105	演習 1
BR60 106	演習 2

BR60 107	演習 3
BR60 108	演習 4

⑦学則科目以外で中学校・高等学校（英語科）教諭一種免許状にかかわる科目

BR70 201	英語科教育法Ⅰ
BR70 202	英語科教育法Ⅱ
BR70 203	英語科教育法Ⅲ
BR70 204	英語科教育法Ⅳ
BR70 205	教育課程総論
BR70 206	総合的な学習の時間の指導法
BR70 207	特別活動論
BR70	教育方法

208	
BR70 209	生徒指導論
BR70 210	教育相談
BR70 211	進路指導
BR70 212	教育実習Ⅰ
BR70 213	教育実習Ⅱ
BR70 214	教育実習Ⅲ
BR70 215	教職実践演習（中・高）

⑧学則科目以外で日本語教員養成課程にかかわる科目

BR80 301	日本語教育史
BR80 302	言語理解論
BR80 303	言語学概論
BR80 304	日本語文法論
BR80 305	日本言語論
BR80 306	日本語学概論
BR80 307	日本語学演習
BR80 308	日本語音声学
BR80 309	日本語語彙研究
BR80 310	日本語表現法
BR80 311	日本語教育方法論
BR80 312	日本語教授法
BR80 313	日本語教授法演習
BR80 314	日本語教育実習

2016年から2018年の入学生

B1	科目名	学年	B2	科目名	学年
B10001	歴史と文学	1・2	B20023	English Reading	1
B10002	伝統と文化	1・2	B20024	English Writing	1
B10003	倫理学	1・2	B20025	Oral English	1
B10004	現代社会論1(日本国憲法を含む)	1・2	B20026	Advanced English Reading	2
B10005	現代社会論2	1・2	B20027	Advanced English Writing	2
B10006	現代社会論3	2・3	B20028	Advanced Oral English	1
B10007	現代社会論4	3・4	B20029	Integrated English	3・4
B10008	環境と科学	1・2	B20030	English Grammar	2・3
B10009	生活と自然	1・2	B20031	Public Speaking	2・3
B10010	情報処理入門	1・2	B20032	Communication English	1・2
B10011	こころとからだ	1・2	B20033	試験英語 1	1・2
B10012	スポーツ1	1・2	B20034	試験英語 2	1・2
B10013	スポーツ2	2・3	B20035	Communication English Skills 1	1
B10014	スポーツと健康	2・3	B20036	Communication English Skills 2	1
B10015	英語コミュニケーション	1・2	B20037	Communication English Skills 3	2
B10016	中国語コミュニケーション	1・2	B20038	Communication English Skills 4	2
B10017	キャリア・デザイン1	1	B20039	Communication English Skills 5	2
B10018	キャリア・デザイン2	1	B20040	Communication English Skills 6	2
B10019	キャリア・デザイン3	2	B20041	英語討論	3・4
B10020	キャリア・デザイン4	2	B20042	実務英語 1	2・3
B10021	キャリア・デザイン 5	3	B20043	実務英語 2	2・3
B10022	キャリア・デザイン 6	3	B20044	ビジネス英語	3・4
			B20045	英語学概論	2・3
			B20046	英米文学史	1・2
			B20047	英書講読	3・4
			B20048	Academic Writing	3・4
			B20049	中国語 I	1・2
			B20050	中国語 II	1・2
			B20051	中国語 III	2・3
			B20052	韓国語 I	1・2
			B20053	韓国語 II	1・2
			B20054	フランス語 I	1・2
			B20055	フランス語 II	1・2
			B20056	日本語 I	1・2
			B20057	日本語 II	1・2
			B20058	日本語 III	2・3

B3	科目名	学年	B4	科目名	学年
B30059	情報リテラシー	1・2	B40067	コミュニケーション概論	2・3
B30060	デジタルコンテンツ演習1	1・2	B40068	マスコミュニケーション概論	2・3
B30061	デジタルコンテンツ演習2	1・2	B40069	異文化コミュニケーション	1・2
B30062	デジタルコンテンツ演習3	2・3	B40070	プレゼンテーション技術	1・2
B30063	デジタルコンテンツ演習4	2・3	B40071	スピーチ・コミュニケーション	1・2
B30064	モバイル・コミュニケーション	1・2	B40072	非言語コミュニケーション論1	1・2
B30065	マルチメディア表現	3・4	B40073	非言語コミュニケーション論2	1・2
B30066	情報機器利用プレゼンテーション演習 2単位	3・4	B40074	演劇表現論	2・3
			B40075	メディア表現論	3・4
			B40076	ポップカルチャー論	1・2
			B40077	社会学概論	1・2
			B40078	心理学概論	1・2
			B40079	カウンセリング	2・3
			B40080	教育心理学	1・2
			B40081	発達心理学	3・4
			B40082	社会心理学	2・3
			B40083	教育社会学	1・2
			B40084	社会福祉	1・2
			B40085	老人福祉	2・3
			B40086	健康と医学	2・3
			B40087	リスク・コミュニケーション	2・3
			B40088	ビジネス・コミュニケーション	1・2
			B40089	教職概論	1・2
			B40090	教育原理	1・2
			B40091	心身障害児教育Ⅰ	2・3
			B40092	心身障害児教育Ⅱ	2・3

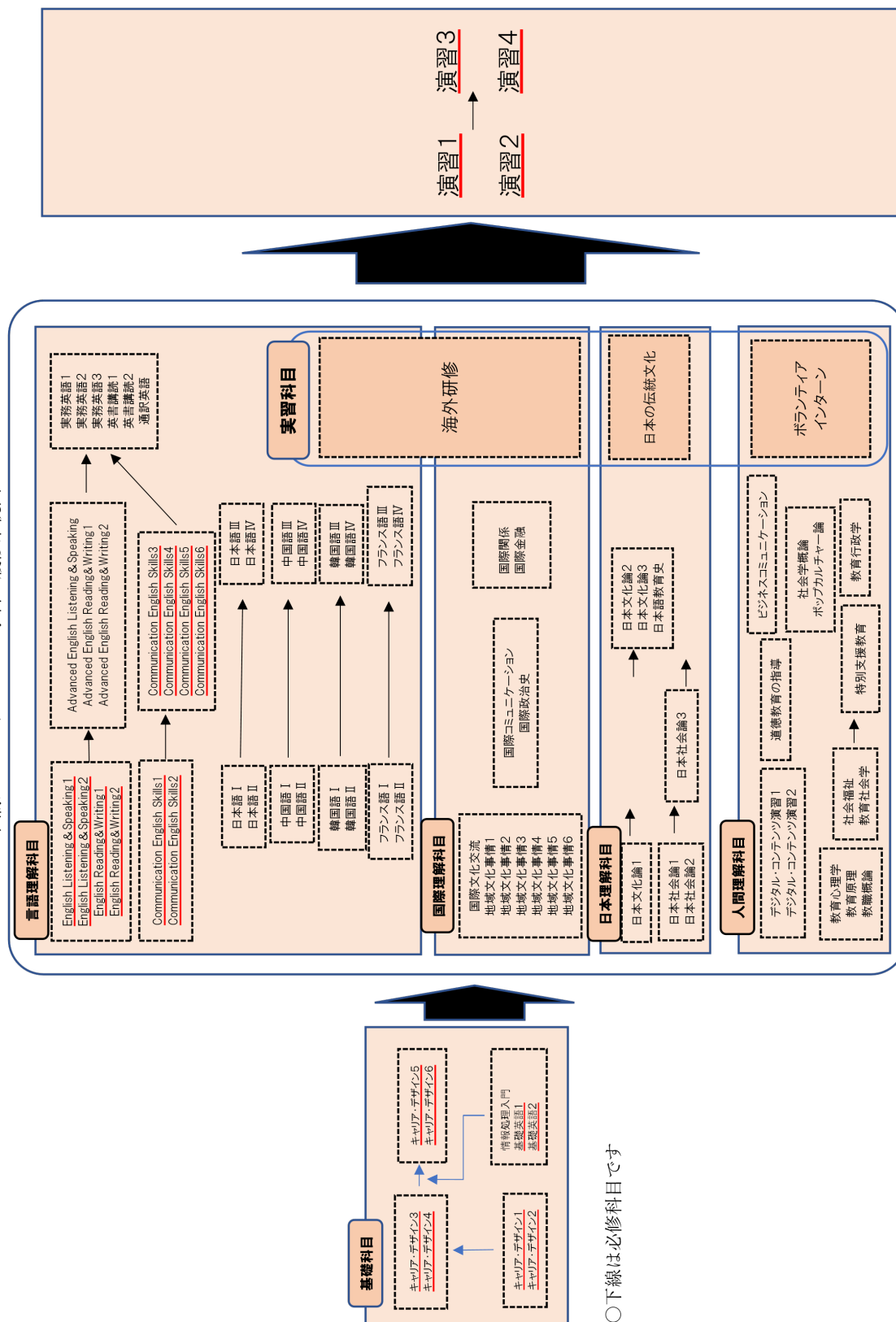
B5	科目名	学年	B6	科目名	学年
B50093	日本文化論1	1・2	B60101	国際コミュニケーション	1・2
B50094	日本文化論2	3・4	B60102	国際関係	3・4
B50095	日本社会論1	1・2	B60103	国際政治史	1・2
B50096	日本社会論2	1・2	B60104	日中交渉史	2・3
B50097	日本社会論3	2・3	B60105	国際経営	3・4
B50098	日本語教育史	3・4	B60106	ビジネス・マネジメント	3・4
B50099	教育行政学	3・4	B60107	国際金融	3・4
B50100	道德教育の指導法	2・3	B60108	国際文化交流	1・2
			B60109	地域文化事情1	1・2
			B60110	地域文化事情2	1・2
			B60111	地域文化事情3	1・2
			B60112	地域文化事情4	1・2
			B60113	地域文化事情5	1・2
			B60114	地域文化事情6	1・2
			B60115	地域文化事情7	3・4
			B60116	地域文化事情8	3・4

B7	科目名	学年	B8	科目名	学年
B70117	海外研修	2・3	B80124	演習1	3
B70118	インターンシップ1	2・3	B80125	演習2	3
B70119	インターンシップ2	2・3	B80126	演習3	4
B70120	ボランティア1	2・3	B80127	演習4	4
B70121	ボランティア2	2・3			
B70122	日本の伝統文化1	3・4			
B70123	日本の伝統文化2	3・4			

・履修系統図

2019 年以降の入学生

国際コミュニケーション学科 履修系統図



2016年から2018年の入学生

